

## 「京都文化芸術プログラム 2020<sup>+</sup>」における重要事業（12 事業）の 主な取組（28 年度）

### 重要事業 1 学校教育をはじめ、あらゆる機会を通じた伝統的な文化芸術に触れる取組

#### ● ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業

伝統的な文化芸術から現代芸術まで、幅広い分野にわたり京都で活動する一流の芸術家を学校に派遣して子どもたちに授業を行うワークショップを実施。

- ・伝統的な文化芸術分野の講義数を大幅に増加して実施（28 年度：40 箇所）

#### ● 学校教育をはじめ、あらゆる機会を通じた伝統的な文化芸術に触れる取組（公演鑑賞） 【28 年度～】

中学生を対象に能や狂言、日本舞踊など伝統的な文化芸術を能楽堂などほんものの場所で鑑賞し、その魅力に触れる公演鑑賞を新たに実施する。平成 28 年度は、モデル事業として、主に市内の中学 1 年生（8 校：842 名）を対象に、1 日 2 公演を実施した。



### 重要事業 2 創造環境の整備

#### ● ロームシアター京都

京都会館が、平成 28 年 1 月 10 日、劇場機能を大きく向上させたロームシアター京都としてリニューアルオープン。京都に新しい「劇場文化」を形づくることを目指し、平成 28 年 1 月から 1 年にわたり、小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトをはじめ、京都国際舞台芸術祭（KEX）や深川秀夫版「白鳥の湖」全幕公演等のオープニング事業を実施した。会館内の賑わいスペースを含めて、1 年で約 250 万人が来場した。



ロームシアター京都  
写真：小川重雄

#### ● 京都市美術館

平成 25 年に開館 80 周年を迎えた京都市美術館は、新しいニーズに応じた展覧会の開催や入館者サービスの向上などが強く求められているほか、建物・設備両面での老朽化をはじめ、展示環境における課題も指摘されており、ソフト・ハード両面からの検討が必要である。こうした現状を踏まえ、平成 27 年 3 月に「京都市美術館再整備基本計画」を策定。平成 28 年 3 月には、基本設計が完了した。工事業者を決定し、実施設計にも着手。平成 29 年 2 月には、京セラ株式会社と 50 億円（50 年間）のネーミングライツに関する契約を締結した。



京都市美術館

#### ● 京都市立芸術大学

平成 27 年 3 月に、移転整備の基本的な方向性を示す「京都市立芸術大学の移転整備基本構想」を策定。平成 35 年度に全キャンパスが一括して移転することを踏まえ、芸術大学が世界を視野に更なる飛躍を目指すとともに、文化芸術都市・京都の発展に大きく貢献できるよう全体コンセプトや施設の配置計画、事業規模、事業スケジュール等を盛り込んだ基本計画を策定した。

- ・「京都市立芸術大学移転整備基本計画」の策定（平成 29 年 3 月）
- ・移転整備プレ事業の実施

### 重要事業 3 国立京都伝統芸能文化センター（仮称）の創設とそれに向けた先駆的取組の実施

伝統芸能文化を未来へと継承していくために、国立機関としての「国立京都伝統芸能文化センター（仮称）」の創設を目指している。また、そのセンターが持つべき機能を先行的に実現する事業として、京都に集積する伝統的な文化芸術を国内外に発信するための創作公演等を実施した。

- ・「国立京都伝統芸能文化センター（仮称）」の整備に向け国へ要望
- ・「五感で感じる和の文化」事業の実施（創生劇場（創作公演）「やわらかなかぐら」をロームシアター京都で開催）

### 重要事業 4 「地域に根差した暮らしの文化」を通じたまちづくりの推進

区民提案により実施する京都市の支援事業等のうちから「文化芸術による地域のまちづくり事業」として認定する取組を平成 26 年度から開始。各区における取組の情報を集約し、地域に根差した暮らしの文化の魅力を再発見し、市民が主体となったまちづくりを進めている。

- ・「京都おもてなし百科（仮称）」の作成に向けて、市内各区の取組から文化芸術に関する事業等をリスト化（平成 28 年度：65 件）

### 重要事業 5 「京都・和の文化体験の日」の実施

大学生をはじめとする若者が伝統的な文化芸術に触れ、体験できる取組を進めている。

- ・「京都・和の文化体験の日」として、大学生を対象に鑑賞、トークイベント等を実施（先斗町歌舞練場等）

### 重要事業 6 未来へつなぐ歴史的建造物等計画的修理事業

2020 年までの期間で、京都市指定・登録文化財の公開に向けた修理補助を実施。大規模な修理事業において所有者負担を軽減することにより、修理事業を促進するとともに、東京オリンピック・パラリンピック期間を中心に一般公開していく。

- ・二尊院本堂（市指定文化財）を含む 7 件の修理補助を実施

### 重要事業 7 「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産」制度の創設

京都の文化遺産をテーマごとに、地域性、歴史性、物語性を持った集合体としてまとめ、認定する。

- ・「北野・西陣でつづられ広がる伝統文化」「山紫水明の千年の都で育まれた庭園文化」「世代を越えて受け継がれる火の信仰と祭り」を認定

## 重要事業 8 文化・観光に関する情報の一元的把握及び入場券等を販売する WEB システムの構築

文化芸術情報サイトにおける海外向けページのコンテンツを充実すると共に、文化芸術情報、観光情報の層互にアクセスができるなど、国内外の観光客により手軽に分かりやすく、より質の高い情報を提供する。

- ・WEB システム「Event Regist」において、「京都薪能」のチケット販売の実証実験を実施

## 重要事業 9 「東京オリンピック・パラリンピック」等を契機とした国際的な祭典の開催

### ● スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの開催

2020 年の東京オリンピック・パラリンピック等に向け、機運を高めるためのキックオフイベントとして、スポーツや文化による国際貢献等について議論・情報発信するフォーラムを開催。文部科学省が主催し、京都会場は京都市・京都府・京都商工会議所が協力して開催した。また、開催に併せて、市独自事業として初めて国宝・二の丸御殿を活用し、400 年前の後水尾天皇の寛永行幸の二条城での催し（池坊専好 華道家元池坊次期家元による立花、蹴鞠、能楽の公演など）を再現。今後の文化財活用のあり方を考える、全国の先駆的なモデルケースとなった。

- ・平成 28 年 10 月 19 日（水）～20 日（木）：京都開催
- ・平成 28 年 10 月 20 日（木）～22 日（土）：東京開催

<参加者数>

- 京都プログラム（延べ約 3,500 名）
- 東京プログラム（延べ約 4,000 名）



二条城をユニーク  
ベニューとして活用



### ● 京都文化カプロジェクト 2016－2020 の実施

日本を代表する文化的リーダーによる呼び掛けに応じて、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等を契機として、京都から多彩な文化・芸術を世界に発信するオール京都による祭典を開催する。

- ・京都文化カプロジェクト実行委員会（理事会）の開催（平成 28 年 5, 10 月, 平成 29 年 3 月）
- ・企画運営委員会及び実施計画策定部会の実施（平成 28 年 6, 7, 9 月）
- ・ポータルサイトの運営（平成 28 年 9 月～）
- ・実施計画（総論）を策定（平成 28 年 10 月）
- ・「日常生活から見つけた京都文化の発信・体験プラン」コンテスト募集（平成 28 年 10～12 月）, 開催（平成 29 年 1 月）
- ・おもてなしワークショップの開催（平成 29 年 3 月）
- ・機関誌の発行（平成 29 年 3 月）



● 伊藤若冲生誕 300 年記念事業

平成 28 年は、京都のまちに深い関わりのある絵師・伊藤若冲の生誕 300 年を迎えることから、若冲の功績を顕彰し、その魅力を国内外へ発信するため、若冲ゆかりの美術館、寺院、商店街等と連携し、生誕 300 年を記念した多彩な取組を展開した。

- ・ 展覧会の開催（京都市美術館 平成 28 年 10 月 4 日～12 月 4 日）
- ・ シンポジウム・ワークショップの開催

京都創生 PR ポスター  
伊藤若冲「雪中雄鶏図」  
細見美術館蔵



● 東アジア文化都市 2017 京都

日中韓文化大臣会合での合意に基づき、日中韓 3 箇国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、様々な文化芸術イベント等を通じて、東アジア域内の相互理解と連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力を高めることを目指す。

- ・ プレ事業の実施（平成 28 年 11 月）
- ・ 開幕式典の実施（平成 29 年 2 月）
- ・ 日中韓食文化シンポジウムの実施（平成 29 年 3 月）
- ・ 日中韓伝統芸能公演～The 饗宴～（平成 29 年 3 月）



開催年	平成 26(2014)年	平成 27(2015)年	平成 28(2016)年	平成 29(2017)年
開催都市	横浜市 泉州市(中国) 光州広域市(韓国)	新潟市 青島市(中国) 清州市(韓国)	奈良市 寧波市(中国) 済州特別自治道(韓国)	京都市 長沙市(中国), 大邱広域市(韓国)

● 大政奉還 150 周年記念プロジェクト

大政奉還から 150 周年となる平成 29 年を迎えるに当たり、幕末・維新に京都で活躍した先人たちの歩みを改めて振り返り、再評価・再認識するとともに、先人を縁とする都市と交流・連携を深める記念プロジェクトを実施する。

- ・ プレイメントの実施  
京の七夕「二条城夏の夜間ライトアップ」タイアップ事業、  
二条城まつりタイアップ事業
- ・ オープニング事業（記念シンポジウム）の実施  
（平成 29 年 1 月）  
参加者 400 名（事前申込制） ※申込者数：1,270 名
- ・ プロジェクト参画都市との交流・連携事業  
幕末維新ガイドブックの発行とスタンプラリーの実施  
（平成 29 年 1 月～）
- ・ 広報・情報発信事業  
専用ホームページによる情報発信  
シンボルマークの作成・活用（使用申請 60 件）（平成 29 年度）
- ・ 歴史資料館で岩倉具視関係資料の修復（平成 28 年 10～平成 29 年 3 月）



大政奉還 150 周年記念  
プロジェクトホームページ

● 世界考古学会議（WAC）の開催

世界最大規模の考古学の学会である世界考古学会議（WAC）第8回大会が、東アジアで初めて京都市で開催した（開催期間：平成28年8月28日～9月2日）。この機会を捉え、市民の皆様と歴史・文化・文化財保存に関する情報と認識の共有化を図ることを目的として、市民参加型講演会を世界考古学会議実行委員会と共催した。

**重要事業10 市民、NPO、大学、企業、文化芸術団体等との連携や支援による様々な文化芸術活動の展開**

京都で開催される文化芸術の事業を京都全体で発信するなど、2020年に向けて行政と市民、NPO、大学、企業、文化芸術団体等が連携し、文化芸術の振興に取り組んでいく。

- ・京都文化芸術コアネットワークを基盤としたAGKサロンの実施等
- ・京都国際映画祭、KYOTOGRAPHIEを企業等と連携して開催

**重要事業11 アーティスト・イン・レジデンス（AIR）の強化など世界のアーティストが集まる文化芸術のハブを目指した環境整備**

世界中のアーティストをつなぐ窓口としての役割を果たすため、文化庁と連携し、京都芸術センターにおいて全国のAIRの活動拠点となるための取組を実施する。

- ・文化庁関西分室と連携したAIRシンポジウムの開催  
（平成29年2月、市民、文化芸術関係者等79名参加）

**重要事業12 文化庁移転方針決定を受けた京都として日本の文化芸術・ものづくり等の振興**

文化庁移転方針決定を受けた京都として、文化の力による日本の地方創生、文化交流を通じた世界平和へ京都が貢献し、国内外との連携を一層強化する。また、文化を通じて全国の地場・伝統産業等の振興に取り組む。

- 文化庁の全面的な移転に向けた取組の着実な推進
  - ・京都市文化庁移転推進会議の設置（平成28年4月）
  - ・文化庁の京都移転に関連した実証実験の実施（平成28年7月）ほか
- 世界遺産・二条城が文化財の積極的活用のモデルとなる取組の実施
  - ・二条城の価値・魅力発信事業（早朝観光の充実、東大手門公開等）
- 歴史的な街並み景観の保全及び防災対策のための無電柱化事業の推進
  - ・歴史的風致形成建造物等の指定拡大により、歴史的建造物の保全・再生に取り組むとともに、歴史まちづくりを推進
  - ・無電柱化事業 整備延長61.12km（平成29年3月現在）
- ICOM（国際博物館会議）京都大会2019の開催を推進
  - ・ICOM京都大会2019京都推進委員会の開催
  - ・ICOM大会開催記念イベント「ナイト・ミュージアムトーク・京都」実施（平成29年2～3月）

など

他の事業については、後日、以下の HP に掲載します。

<アクセス方法>

京都市情報館トップページ⇒観光・文化・産業⇒文化・芸術⇒条例・計画・審議会⇒京都文化  
芸術都市創生審議会

URL <http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000004534.html>